

第2部 地震の概要

1 地震の規模

- (1) 名称 平成7年兵庫県南部地震
- (2) 発生日時 平成7年1月17日(火) 午前5時46分
- (3) 震源 兵庫県淡路島北部 北緯34° 36′ 東経135° 03′
- (4) 震源の深さ 約14km
- (5) 規模 マグニチュード 7.2
- (6) 各地の震度

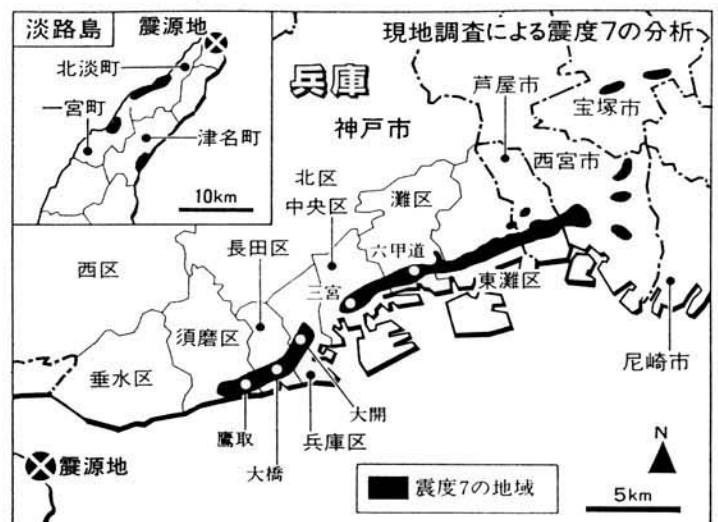
(平成7年1月17日 大阪管区気象台発表)

震度	気象官署名
震度 6	神戸 洲本
震度 5	京都 彦根 豊岡
震度 4	岐阜 四日市 伊賀上野 福井 敦賀 津 和歌山 姫路 舞鶴 大阪 高松 岡山 徳島 津山 多度津 鳥取 福山 高知 境港 呉 奈良
震度 3	山口 萩 尾鷲 伊良湖 富山 飯田 諏訪 金沢 潮岬 松江 米子 室戸岬 松山 広島 西郷 輪島 名古屋 大分
震度 2	佐賀 三島 浜松 高山 伏木 河口湖 宇和島 宿毛 松本 御前崎 静岡 甲府 長野 横浜 熊本 日田 都城 軽井沢 高田 下関 宮崎 人吉
震度 1	福岡 熊谷 東京 水戸 網代 浜田 新潟 足摺 宇都宮 前橋 小名浜 延岡 平戸 鹿児島 館山 千葉 秩父 阿蘇山

なお、気象庁は現地調査の結果、

- ① JR須磨駅付近～兵庫区新開地
- ② JR三宮駅付近～阪急夙川駅付近
- ③ その他 右図の地域を震度7と認定した。

(平成7年2月7日気象庁発表)



神戸新聞社発行「阪神大震災全記録」より

2 地震の特徴

戦後最大の惨事となった阪神・淡路大震災は、淡路から神戸、阪神間にかけて、いくつも走る活断層群が、千数百年にわたり、ため込んだ膨大なひずみエネルギーを一気に爆発させたものだとされている。

なぜ地震は起きるのか！

地球の内部は溶けたマグマであるが、表面は、そのマグマが冷えて固まった厚さ約百キロにも及ぶ十数枚の巨大な岩（プレート）で覆われている。

西日本は欧州・アジア大陸から張り出すユーラシアプレートの上に乗り、南方から押し寄せるフィリピン海プレートが、その下に徐々に潜り込む構造になっている。その際、ユーラシアプレートが引きずり込まれ、歪みに耐えられなくなると地殻が破壊されて地震が発生する。こうした地震をプレート境界地震という。

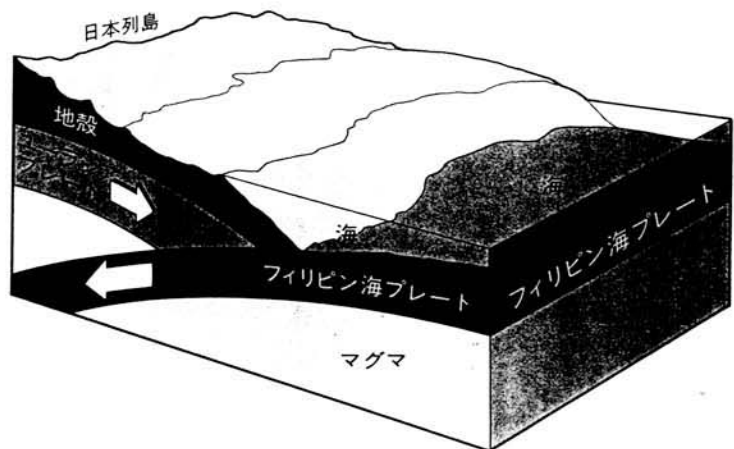
しかし、今回はこのタイプではなくプレート内の地震、つまり内陸、または内陸に近い部分での活断層が震源となったプレート内地震。

日本の場合、都市などの直下で起きることから都市直下型地震と呼ばれている。

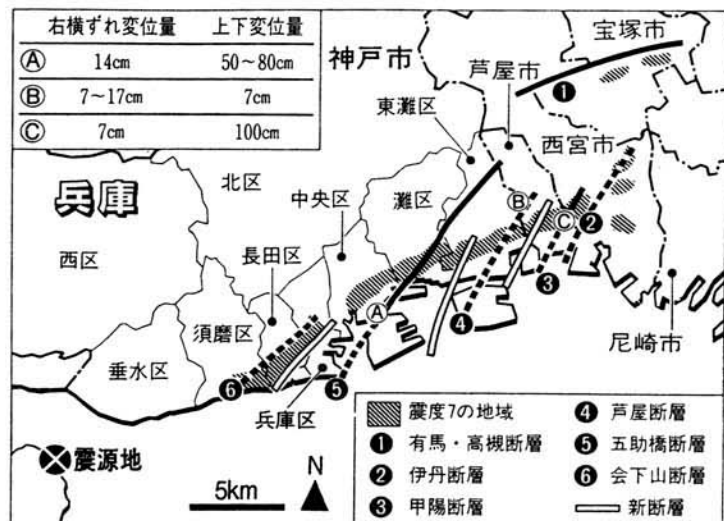
阪神間の活断層！

全国に約二千の活断層が発見されているが、京阪神は、有馬－高槻構造線という大きな断層をはじめ、山崎断層、生駒断層、そして今回動いた会下山、五助橋、甲陽など多数の断層を含む六甲断層群と数多くの活断層が走る断層集中地帯だといわれている。

日本列島周辺のプレート



神戸新聞社発行「阪神大震災全記録」より



神戸新聞社発行「阪神大震災全記録」より

3 参考事項

(1) 明治以降の地震で、神戸に影響を与えたと考えられる震度5以上の地震

年	名称	震源地	マグニチュード	神戸での震度
明治32年		紀伊半島南東沖	7.0	5
明治32年	有馬鳴動	六甲山	不明	5
明治42年	江濃川地震	滋賀県姉川	6.8	4～5
大正5年		明石海峡	6.1	5

(2) 気象庁震度階級

震度	名称	説明
0	無感	人体に感じないで地震計に記録される程度
1	微震	静止している人や特に地震に注意深い人だけに感ずる。
2	軽震	大勢の人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかるぐらい。
3	弱震	家具がゆれ、戸障子がガタガタと鳴動し電灯のようなつり下げ物は相当ゆれ器内の水面の動くのがわかる。
4	中震	家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花びんなどは倒れ、器内の水はあふれ出る。また歩いている人にも感じられ、多くの人は戸外に飛び出す。
5	強震	壁に割れ目のはいり、墓石・石灯ろうが倒れたり、煙突・石垣などが破損する。
6	烈震	家屋の倒壊は30%以下で、山くずれが起き、地割れを生じ、多くの人々は立っていることができない。
7	激震	家屋の倒壊は30%以上におよび、山くずれ・地割れ・断層などを生じる。

(3) 今回の余震の程度

2月15日までの余震の発生回数は、1,501回（うち有感地震174回）である。その間の最大規模の余震は、震度4（1月25日発生）である。

また、最近では、10月14日に震度4の余震があった。

